

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名： **医学部医学科**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
<p>医学教育の高度化に対応し学士課程教育の向上のためカリキュラムの改革、動機づけのための教育の充実に努める。</p> <p>臨床実習をより効率よく実施できるようにシミュレータを用いた教育の拡充に努める。</p> <p>学士課程の最終評価である卒業試験について、前年度から移行した統合的試験方式の充実に努める。</p> <p>予算成立後、校舎の新営、大規模改修工事を計画通り実施しながら、学生の通常の教育環境の確保に努める。</p>	<p>医学教育については、カリキュラム改革は、地域医療の重要性を認識させることが求められている。これは学習の動機づけという側面があり、1年生の地域枠を中心に早期体験実習を行っている。参加者は次第に増加傾向にある(平成21年度5名、22年度9名、23年度20名、24年度13名)。</p> <p>シミュレータは導入が急速になされており25種類となっている。使用頻度の高いものでは月30回を超えている。これらを有効に活用して実践的教育を推進している。</p> <p>文部科学省平成24年度基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成プランが大学改革推進等補助金に採択された。</p> <p>卒業試験は統合試験方式を導入し、国家試験への対応と負担軽減に努めた。</p> <p>平成24年度末には基礎講義実習棟の耐震を含む大規模改修が完了する。また、系統解剖、法医解剖を含む総合教育研究棟が認められ、平成26年末に完成予定となっている。この間、学生の講義実習を遅滞なく行うように準備し、進めている。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
医師国家試験合格者数、合格率	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
<p>研究科、病院と連携して、プロジェクト研究を進め、トランスレーショナルリサーチを推進する。</p> <p>科研費、寄付金、受託研究費など外部資金のさらなる獲得を推進する取り組みを行う。</p>	<p>平成24年に策定された医療イノベーション5か年戦略に沿う実績として、アデノウイルスベクターを使用する5件の臨床研究プロトコルを実施している。</p> <p>外部資金獲得については、出来る限り多くの研究課題を提出するよう教授会やメール等々で周知活動等を行っている。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
「森田ビジョン」に謳われている秩序ある施設整備、社会に開かれた美しい学都となるために、鹿田地区(岡山南キャンパス)の建物等の公式長期計画を策定する。	平成23年度より拡大部局長室会議を中心として、長期将来構想について議論を進め、平成24年度には医学部医学科、保健学科、歯学部、薬学部のすべての医療系教授会の承認を得、全学の教育研究評議会・部局連絡会でその結果を披露し、長期構想を策定した。現在、その内容に従って本キャンパスの建物等の改修などが開始された。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
平成24年は多数の工事等が開始され、教育環境の維持、交通関係の保持といったことに相当の労力を要した。また、文科省からの「ミッション再定義」について報告書を作成し、ヒアリングを受けた。構成員の多大な協力により多くの課題を処理できたと評価している。社会に開かれ、評価される医学部を目指して努力してゆきたい。	